

## B 新型コロナウイルス SARS-CoV-2、その感染症 COVID-19 について

要約(2021年3月7日現在)

最も大事なことから

他人への感染源とならない

:3密を避ける、マスク着用厳守、発熱時及び体調不良時に人が集まる場所へ出ていかない

自分が感染しない

:3密を避ける、マスク着用、手洗い、うがい

具体的には、

必要のない会話、特に大声、は慎む

宴席、長時間の会話、場への慣れ(まあいいだろう) = 非常に危険な行為

参考:濃厚接触者の定義より一部抜粋

3条件:1m以内、マスクなし、15分以上の接触(会話を含む)

但し、一つだけでも危険な接触と考えられることもあります

マスクの着用

屋外:2m離れていれば会話などをしない限り不要

但し、会話しながら歩いている人がマスクをしていない場合、その後ろを歩くことは危険。少なくとも4m以上は離れること。

屋内:原則着用

註 2重マスクの効果(別掲18参照)

不織布マスクの上に布やウレタンマスクを重ねて使用されています

マスクを2重に使用しても、不織布マスクを顔に密着させて単独で装着する場合と効果に差はありません。顔に密着させることが重要です。2重にすることで不織布マスクを顔に密着させやすい効果はあります。一方で2重にすることにより顎側に隙間をつくりやすくなることもあるので注意が必要です。

稽古時:面マスク必須、

マウスシールド、アイガシールド、(フェイスシールド)着用順守

この条件下であれば発声は問題ないが、無駄な発声はつつしむ

シールドはマスクの代わりとはならない。併用は効果を高める。

◎全剣連段審査受審者には面マスク必須、ガ-ド、シールドは推薦となっています。  
審査時実技の際には大きな声の発声はありますが、密にはなっていないので推薦にとどめられています。  
稽古の際にはマウスシールド(マウスガ-ド)を是非併用してください。

◎最近テレビ出演者等が使用している耳掛け式のマウスガ-ドはマスクの代用とはなりません。感染予防のために使用すべきものではありません。  
基本的に呼吸がとても楽なもので呼吸器関連の感染を防ぐ機能があるものではありません。

### 感染性、病原性

- ・現在、ウイルスの感染性は変異株出現により全世界で高まっていると考えられます。病原性も高くなっている可能性があります。
- ・変異株は英国、南アフリカ、ブラジル株が確認されています。最近日本での変異株と考えられるものも確認されています。(別掲 19)
- ・冬季では、空気の乾燥、3密になりやすい、換気が不十分になりやすい、慣れによる気のゆるみなどから感染者数は夏季よりも増加しやすくなっています。

### 危険因子

- ① 高齢者
- ② 糖尿病、高尿酸血症
- ③ 循環器疾患  
うっ血性心不全、末梢動脈疾患、高血圧、不整脈
- ④ 呼吸器疾患  
慢性閉塞性肺疾患(COPD)、現在の喫煙習慣
- ⑤ 慢性腎臓疾患
- ⑥ 妊娠はむしろリスクが軽いと考えられるが後期では前期に比して重症化しやすい  
最近では、妊娠中は感染しやすいという報告もあります
- ⑦ 男性(女性に比して、ただし重症例では差がないという報告もある)
- ⑧ 肥満 BMI 30%以上  
BMI30% = 身長 170 cmでは 87kg、160cmでは 77kg

### ワクチン

- ・世界で 11 種が開発中、そのうち米・英の 3 種が臨床使用中です。ロシア、中国製のワクチンも自国や希望されている国で使用されています。
- ・日本でも別個に開発中ですが本年内の臨床使用は困難か？
- ・経済的後進国への配布も開始されています。

- ・日本は英 AstraZeneca 社から 1 億 2000 万回分、米 Pfizer 社から 1 億 2000 万回分、米 Moderna 社から 4000 万回分の供給を受けることで合意している  
現在米 Pfizer 社製を医療関係者から接種中です。
- ・効果、有効性目標は 50～70%だが現在はそれよりも有効とされています
- ・中和抗体の持続期間は 3 ヶ月から 6 か月ではないかと考えられています。
- ・米 Pfizer 社製は搬送する場合零下 70～80℃の状態では搬送する必要があるとされていたが、現在は温度管理も緩和されています。他社は通常の冷蔵管理で可
- ・日本政府の発表ではワクチン接種は全員無料、医療従事者や高齢者、リスクの高い合併症を持つ人に優先接種とされています。
- ・優先接種対象となる合併症については関係医療学会と検討中

#### ワクチンによる副反応

- ・現在のところ全てのワクチンでインフルエンザワクチンなどと比してやや多いようです。重症の副反応、アナフィラキシーも発生していますが、確認されている範囲で死亡者はありません。
- ・利益と不利益を考えると利益が上回ると考えられています。

#### 治療

- ・基本的に対症療法(症状を緩和し、悪化を防ぐ)のみです
- ・特異的特効的な治療薬、治療方法はまだありません
- ・しかし、複数の治療薬が開発中であり、悪化を有効に防ぐ薬剤は複数確定されています
- ・治療方法の確立により、入院患者の死亡率は全年齢で改善しています。
- ・現在は入院対応、特に重症者については余裕があるとはいえない状況です

#### 後遺症

- ・現在、非常に問題となっています
- ・全年齢層で、軽症か重症かを問わず発生しています
- ・原因についてはまだ確定されていません
- ・症状は非常に多彩で、比較的軽度のものから日常生活が困難となるものまで程度もさまざまです
- ・後遺症とされているものの、疾患が継続しているという意見もあります

**現状ではまだ治療への期待は小さく、予防が非常に重要です**